

日本の古代史とその文化シリーズ7

「秦氏と渡来人」

参照資料第 1回:「渡来人とその時代背景」

参考資料1－1:高句麗の南下



出典:図説ユニバーサル新世界史資料

参考資料1-2:朝鮮後三国時代 勢力図と年譜

676年に新羅によって朝鮮半島初の統一がなされますが、8世紀末から9世紀まで王位継承の争いが起こり、地方でも農民が反乱を起したり、飢饉に見舞われたりと新羅は国力を失っていきます。そんな中、有力な豪族たちが新羅を分裂させ国を建国していきました。後三国時代といわれる時代です。

後百濟
新羅

後三国時代

後高句麗
(高麗)

統一新羅

三国時代



出典: ウィキペディアから原図引用

参考資料1－3：高句麗と朝鮮、倭の年譜

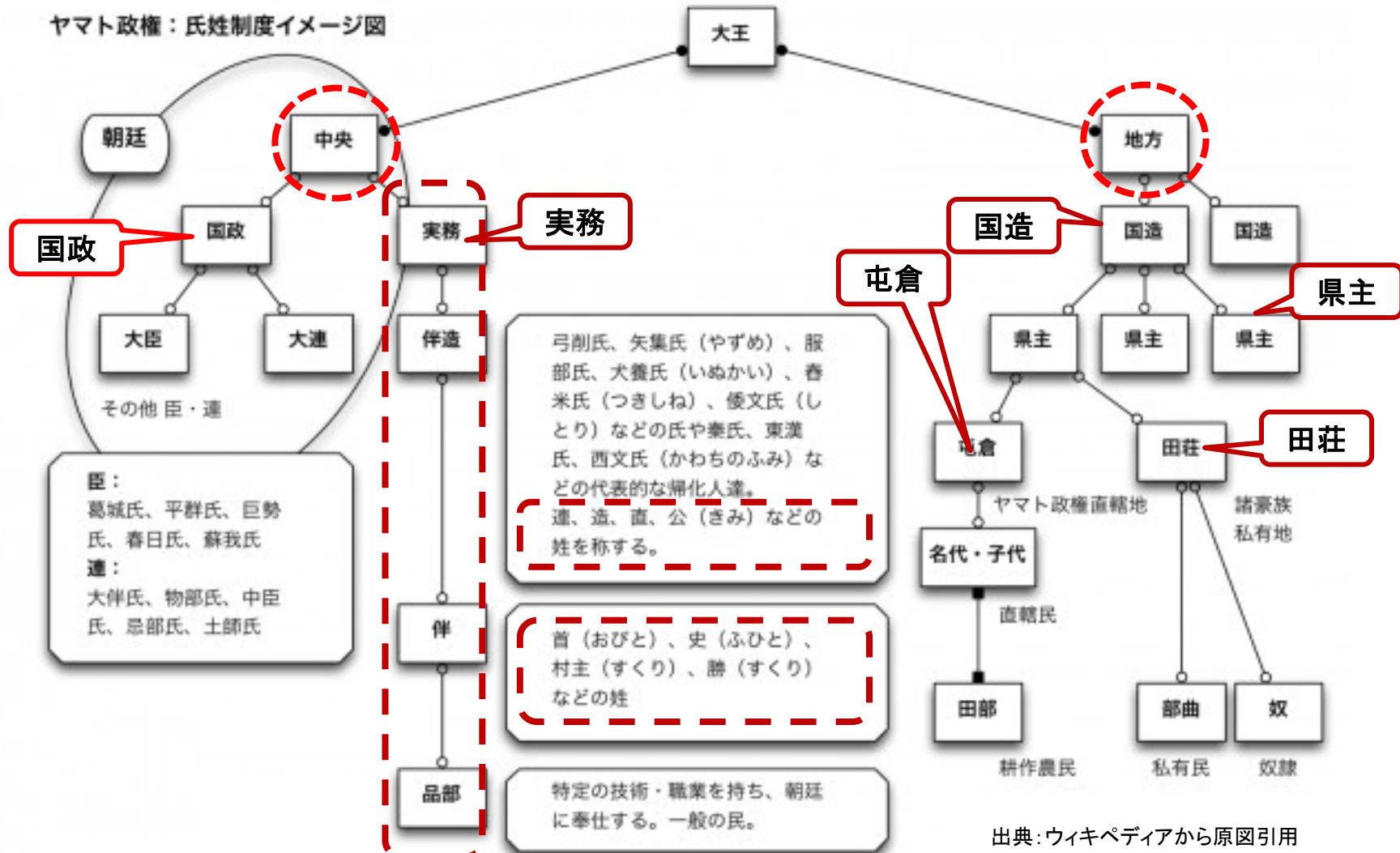
	中国	朝鮮半島	倭・大和
200年	(三国志時代)	209年 高句麗、丸都を都にする 204-238年公孫氏帶方郡支配 (三韓時代：馬韓・弁韓・辰韓)	239年 卑弥呼、魏へ朝貢親魏倭王金印
300年	265年 晉(司馬炎)	286年 高句麗、帶方郡を奪う	265年 臺與、西晋へ朝貢
	317年 東晉	(三国時代：百濟・新羅・伽耶)	369年 任那を支配
400年		391-412年 高句麗南下(好太王)	
	420年 南宋、北魏	427年 高句麗平壤遷都	478年 倭武帝、宋に遣使
500年		562年 新羅、任那併合	562年 任那の日本府滅ぶ
600年	581年 隋王朝		
	618年 唐王朝	668年 高句麗滅亡 675年 新羅、百濟を併合	663年 白村江の戦いで敗戦

参考資料1－4: 葛城氏と旧大和豪族勢力図

大和の豪族たち



参考資料1-5-①: 氏姓制度による支配構造



出典: ウィキペディアから原図引用

参照資料1－5－②:「氏姓制度」

1. 5世紀頃:臣連制—成務天皇(13代)、允恭天皇(19代)

出典: ウィキペディア

臣(おみ)

葛城氏、平群氏、巨勢氏、春日氏、蘇我氏のように、ヤマト(奈良盆地周辺)の地名を氏の名とし、かつては大王家と並ぶ立場にあり、ヤマト王権においても最高の地位を占めた豪族である。

連(むらじ)

大伴氏、物部氏、中臣氏、忌部氏、土師氏のように、ヤマト王権での職務を氏の名とし、大王家に従属する官人としての立場にあり、ヤマト王権の成立に重要な役割をはたした豪族である。

伴造(とものみやつこ)

連とも重なり合うが、おもにそのもとでヤマト王権の各部司を分掌した豪族である。
弓削氏、矢集氏(やすめ)、服部氏、犬養氏(いぬかい)、春米氏(つきしね)、倭文氏(しどり)
などの氏や秦氏、東漢氏、西文氏(かわちのふみ)などの代表的な帰化人達に与えられた氏がある。
連、造(みやつこ)、直(あたい)、公(きみ)などの姓を称した。

百八十部(ももあまりやそのとも)

さらにその下位にあり、部(べ)を直接に指揮する多くの伴(とも)をさす。
首(おびと)、史(ふひと)、村主(すくり)、勝(すくり)などの姓(カバネ)を称した。

国造(くにのみやつこ)

代表的な地方豪族をさし、一面ではヤマト王権の地方官に組みこまれ、
また在地の部民を率いる地方的伴造の地位にある者もあった。
国造には、君(きみ)、直(あたい)の姓が多く、中には臣(おみ)を称するものもあった。

県主(あがたぬし)

これより古く、かつ小範囲の族長をさすものと思われる。いずれも地名を氏の名とする。
このように、氏姓制度とは、連—伴造—伴(百八十部)という、
大王のもとでヤマト王権を構成し、職務を分掌し世襲する、いわゆる「負名氏」(なおいのうじ)
を主体として生まれた。その後、臣のように、元々は大王とならぶ地位にあった豪族にも及んだ。

2. 八色の姓(7世紀頃):天武天皇(40代)

- ◆684年(天武天皇13年)に、「八色の姓」が制定された。
その目的は、上位の4姓、つまり真人、朝臣、宿禰、忌寸を定めることである。
- ◆真人は、繼体天皇より数えて5世以内の世代の氏に与えられたといわれ、
皇子・諸王につぐ皇親氏族を特定したので、飛鳥淨御原令で官位を皇子・諸王と貴族(諸臣)
とで区別したことと共通する。
- ◆したがって、貴族の姓としては、朝臣、宿禰、忌寸の3つである。
その間にさらに氏族の再編が進められ、朝臣52氏、宿禰50氏、忌寸11氏に収められた。
- ◆大宝令(701年)で、貴族の三位以上と四、五位の官位にともなう特権が明確にされた。
これに対応する氏姓も一応完成された。
地方豪族についても、
702年(大宝2年)、諸国国造の氏姓を政府に登録することによって、中央豪族と同様の
対応がなされたものとされる。。

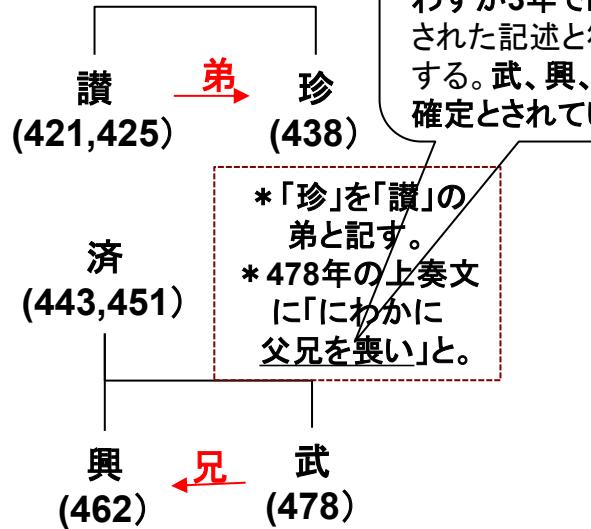
出典: ウィキペディア

参考資料1－6:忌寸賜姓氏族の改正過程（八色の姓）

氏族	草香部吉士 (くさかべ のきし)	草香部吉士大形 ↓難波連	田井直吉麻呂 (たいの あたいよしまろ)	書直智徳 (ふみの あたいよしまろ)	坂上直熊毛 (さかのうえ のあたいくまげ)	東漢直 (やまとあ やのあた い)	西文首 (かわちの ふみの おび)	西漢直 (かわちの あやの あたの い)
天武10年								
天武11年						倭漢直↓連 (やまとあ やのあたい)		
天武12年	草香部吉士 ↓連							川内漢直↓連
天武14年		難波連 ↓忌寸				倭漢連↓忌寸	書連↓忌寸 秦連↓忌寸	河内漢連 ↓忌寸

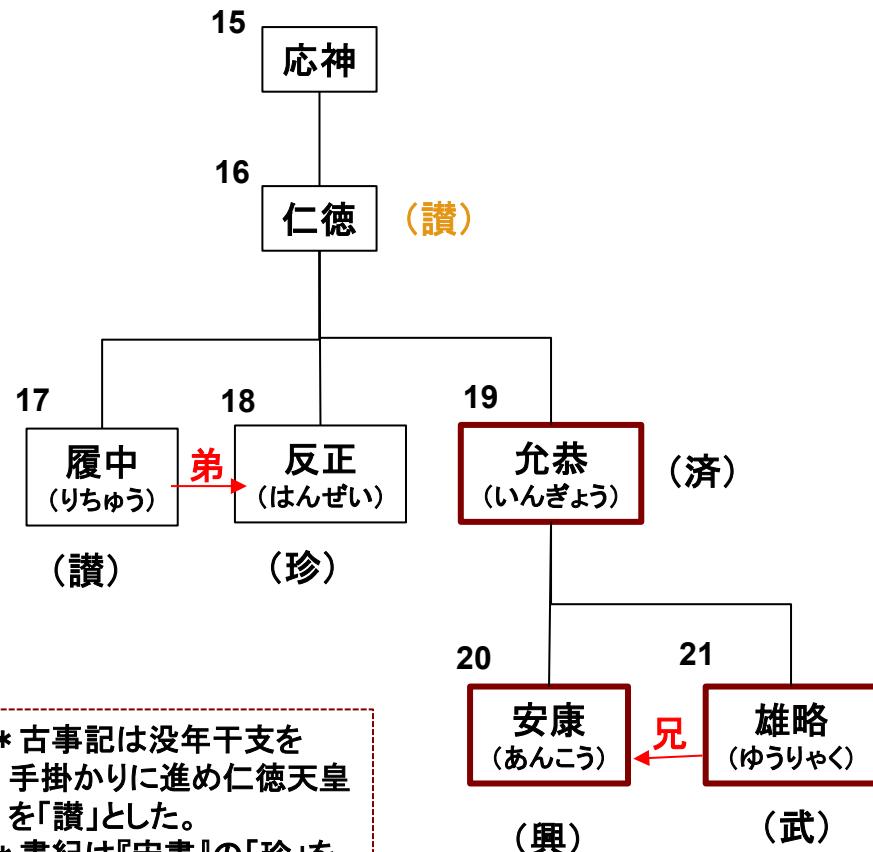
補足: 参照資料1-7:倭の五王

『宋書』倭国伝

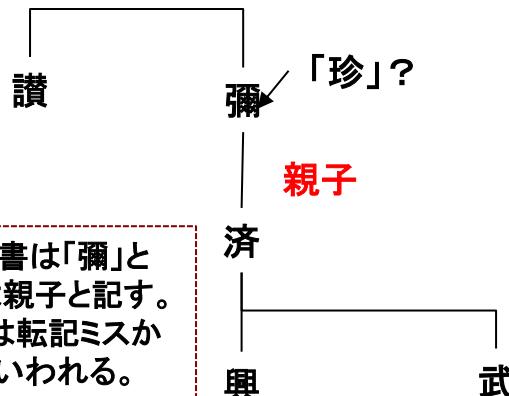


父の允恭天皇の死後、兄の安康天皇がわずか3年で暗殺された記述と符合する。武、興、濟は確定とされている

『日本書紀』天皇系譜



『梁書』倭伝



出典: ウィキペディアから原図引用